

会 議 録

会議の名称	平成 27 年度第 1 回茨木市文化振興施策推進委員会
開催日時	平成 27 年 6 月 26 日（金） （午前 <u>午後</u> 1 時 30 分 開会 （午前 <u>午後</u> 3 時 00 分 閉会
開催場所	市役所南館 3 階 防災会議室
議 長	出口委員（委員長）
出 席 者	安藝委員、飯嶋委員、木村委員、栗本委員、後藤委員、出口委員、松本委員、 森 委員、山野委員 【9 人】
欠 席 者	なし 【0 人】
事務局職員	大西市民文化部長、田川市民文化部理事、 上西文化振興課長、庄田文化振興課長代理 【4 人】
開催形態	☒ 公開 / 非公開
議題（案件）	(1) 文化振興ビジョンについて (2) 今年度の事業計画について
配布資料	(1) 次第 (2) 配席図【資料 1】 (3) 委員名簿【資料 2】 (4) 茨木市文化振興施策推進委員会開催スケジュール【資料 3】 (5) 説明資料【資料 4】 (6) 参考資料【参考】

議 事 の 経 過

発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
司会	【開会】 ただ今から、茨木市文化振興施策推進委員会を開催いたします。 本日は、公私何かとお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、司会進行を務めます文化振興課の庄田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 本来であれば、市長から委嘱状をお渡ししなければいけないのですが、机に委嘱状を置かせていただいております。お名前のご確認をお願いいたします。 始めに、開会に当たりまして、大西市民文化部長からご挨拶を申し上げます。
市民文化部長	皆さん、こんにちは。市民文化部長の大西でございます。 平成27年度第1回茨木市文化振興施策推進委員会の開催にあたりまして、委員の皆さまに、一言ごあいさつを申し上げます。 本日は、公私何かとご多用の中、ご出席をいただきましてありがとうございます。 委員の皆様には、昨年度から2つの専門部会、文化振興ビジョン策定専門部会については、5回の会議、文化芸術ホール建設基本構想策定専門部会については、3回の会議でそれぞれご審議いただきました。答申の結果を踏まえ、文化振興ビジョン、文化芸術ホール建設基本構想をそれぞれ3月に策定いたしました。どうもありがとうございました。 今年度につきましても引き続き、本委員会委員就任のお願いに際しましては、快くご承諾をいただき、誠にありがとうございました。 さて、本委員会は、文化振興に係る計画の策定、推進及び見直しに関する事項のほか、文化芸術施設に係る基本構想の策定及び推進に関する事項、その他文化振興に関する事項について審議することを目的としており、市民、有識者、関係団体の皆様のご意見を頂戴し、文化振興に係る各種施策に反映させたいと考えております。 具体的には、策定しました文化振興ビジョンの推進に向けた文化施策について、ご審議いただきたいと考えております。 詳細につきましては、後ほど担当からご説明申し上げますので、委員の皆様には、大変ご労苦をおかけすることと存じますが、どうかよろしくお願い申しあげまして、簡単ではございますが、開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。皆さん、よろしくお願い申しあげます。
司会	それでは、これより、第1回会議に入ります。後ほど互選により、委員長を選出させていただきますが、委員長が決まりますまで、事務局で進行役を務めてまいりますので、ご了承の程よろしくお願いいたします。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
仮議長	文化振興課長の上西です。よろしくお願いいたします。まず、本日の委員の出席状況につきまして、ご報告いたします。 茨木市文化振興施策推進委員会規則第6条第2項により委員の総数の2分の1以上の出席がなければ会議を開くことができませんが、本日のご出席は9人、欠席は0人です。委員9人中9人出席ですので会議は成立しております。 議題に入ります。 それでは、議事の審議に先立ちまして、委員の皆様を席順にご紹介させていただきます。申し訳ありませんが、その場でご起立願います。 国立民族学博物館 教授 出口 正之 様です。 関西大学文学部 教授 森 隆男 様です。 茨木美術協会 会長 木村 光佑 様です。 茨木市音楽芸術協会 会長 飯嶋 豊 様です。 大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所 主席研究員 栗本 智代 様です。 茨木市文化振興財団 理事長 松本 雅裕 様です。 茨木市観光協会 会長 山野 寿 様です。 市民委員 後藤 恵子 様です。 同じく、安藝 しのぶ 様です。 以上、本委員会委員の皆様でございます。 次に、茨木市側の出席者を紹介いたします。 先ほど、ご挨拶を申しあげました、市民文化部長の大西 稔 です。 市民文化部理事の田川 正文 です。 文化振興課長代理の庄田 哲也 です。 最後に、私は、文化振興課長の上西 啓子 でございます。 よろしくお願い申し上げます。 【委員長の選出】 それでは、本委員会の委員長を選出に移ります。 委員長の選出は委員会規則第5条の第1項の規定に基づき、委員の互選によりお願いいたしたく存じますが、いかがいたしましょうか。
松本委員	国、自治体の文化行政に精通され、昨年度の本委員会の委員長として、議事、審議

議 事 の 経 過

発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	を纏めていただきました国立民族学博物館教授の出口委員が適任だと思います。いかがでしょうか。
仮議長	ただ今、松本委員から委員長には出口委員が適任との提案がございましたがご異議ございませんか。
委員	【異議なしの声】
仮議長	ご異議がないようですので、出口委員に委員長をお願いすることとなりました。それでは、出口委員長、どうぞ委員長席の方にお移りいただきたいと存じますので、よろしくお願いします。 お席に着かれましたところで、委員長就任のご挨拶を賜りたいと存じます。出口委員長、よろしくお願いいたします。
出口委員長	昨年は文化振興ビジョン策定の議論をしていただき、ありがとうございます。今年度はそのビジョンに基づく、文化振興施策の推進を議論させていただくこととなります。 ところで、基礎自治体が窮して、地方創生が叫ばれる中で、茨木市は約 9.9 万 m² にも及ぶ立命館大学の大阪茨木キャンパス（OIC）が 4 月に開設され、6,000 人の学生が勉学・スポーツ・文化活動に励んでいます。もともとは、ビール工場があった場所で、社会学者のダニエル・ベル先生が 50 年近く前から予想していた通り、脱工業化社会として、工業社会は、大学・病院・美術館などの非営利組織の社会にとってかわられるということが、まさに茨木市で起こったわけであります。日本国内でこのように恵まれた基礎自治体を探すことはなかなか難しい。 私の専門の財団関係で有名なところとしましては、スペインのバスク地方のかつての鉄鋼業の工業都市ビルバオが、米国のグッゲンハイム美術館財団を誘致することによって、工業社会から脱工業社会へと大きな変化を遂げたことが知られております。 考えてみれば、財団というのは、企業と異なり、株主に相当する所有者というものが存在しません。ビルバオのグッゲンハイム美術館も、ビルバオの財団となっておりますから、グッゲンハイムが有しているのではないという不思議な現象となっております。 美術館までもグローバルに展開している、展開できるものだということは注目して

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
仮議長	おいてよろしいのではないかと考えております。少ないコストで素晴らしい美術館が出来上がるということです。 脱工業化社会というのはいささか古い用語であります、現代まで現在進行中の出来事であるということだと思います。 我田引水かもしれませんが、非営利組織をうまく活用した地方創生というものを考える上でも、茨木の文化振興施策は重要になってくるものと考えます。 ありがとうございました。 それでは、これからの議事は、委員会規則第6条の規定により、委員長に議長を務めていただきますので、よろしくお願いをいたします。
出口委員長	それでは、議事を進めてまいります。最初に、委員会規則第5条第3項に基づき、職務代理を選任したいと思います。職務代理者は委員長が指名することとなっておりますので、私のほうから指名させていただきます。職務代理者として栗本委員を指名したいと思いますので、よろしくお願いいたします。 続いて、会議次第に沿って議事を進めてまいります、会議の終了は、午後3時頃を予定しておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。 次に、会議の運営方法である会議等の公開についてお諮りしたいと思います、先に事務局の説明を求めます。
事務局	会議及び会議録、会議資料の公開についてご説明いたします。 本市では、審議会等の会議は、個人に関する情報を審議する場合などを除き、公開を原則として、審議会等に諮ったうえで決定することとしています。また、審議に関して提出された資料につきましても、審議会等の同意を得て、傍聴人に閲覧、配布することができることとしております。 また、会議録、会議資料につきましても名前も含めて、公表に努めているところでございまして、この文化振興施策推進委員会の審議につきましても、公表を予定しているところでございます。 以上でございます。
出口委員長	ただ今、事務局から会議の公開、会議録及び会議資料の公開についての説明がありました。 今後、非公開とすべき案件が発生したときには、会議の非公開を決定することとして、それまでは、原則に基づき会議は公開としまして、資料につきましても傍聴者へ

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	の閲覧、配布を許したいと思います。 また、会議録に関する事項につきましても、他の審議会と同様、公開とし、各委員からの意見についても、お名前を明記して公表したいと思いますが、ご異議ございませんか。
委員	【異議なしの声】
出口委員長	それでは、今後、本委員会につきましては、公開といたしますので、傍聴者がおられましたら、入室していただいて結構です。
	【傍聴者入室】
出口委員長	本日の案件の審議に入りたいと思います。 それでは、議事内容について、事務局の説明を求めます。
	1 文化振興ビジョンについて
事務局	文化振興ビジョンについて ・本委員会での審議事項について 文化事業の取り組み内容や状況を審議・評価していただきたいと思います。 ・文化振興ビジョン策定、文化芸術ホール建設基本構想策定の経過について 平成 25 年度に市民アンケート、小中学校アンケート、文化関係団体等のヒアリングを行い、素案を作成しました。26 年度に入り、素案を基に当委員会の策定専門部会で審議し、パブリックコメント実施の上、答申いただき市で年度末にまとめました。 ホールにつきましても 26 年度に文化芸術ホール建設基本構想策定専門部会でご審議いただき、上記の流れでまとめました。文化芸術ホールについては双葉町の場所で具体化に向け、民間活力により市の財政負担を極力抑える事業手法を検討した結果、一定の財政負担は必要であるという結果がでました。 今後、立命館大学の市民開放施設として 1,000 人規模のグランドホールができています。そちらの利用状況、阪急西口の再開発の状況、市の文化施設の基金の状況を踏まえて慎重に検討を進めていきます。 ・茨木市文化振興ビジョン第 1～5 章の内容説明及び市の文化事業の動画を紹介
出口委員長	説明は終わりました。昨年度 5 回にわたり専門部会において審議し、そして、委員

議 事 の 経 過

発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	会の答申としてまとめ、市において策定された文化振興ビジョンについて、各委員のご意見、ご感想などをお話しいただけたらと思います。 その前に、今日の会議では何項目程度を委員に話してもらうか決めておきたい。 ・ 昨年度の文化振興ビジョンについての感想、意見 ・ 今年度の文化振興事業について の2件でお願いしたい。
栗本委員	昨年度議論した内容が取り入れられていた。 まとめられて、次のステップとしてできるだけ多くの市民の方の目に触れるように、いろんなシーンで全世代に目に触れる機会が今後増えればいいと思う。
松本委員	文化振興ビジョンが本番に入ると思うが、今年度も具体性を持たさずに推進方策を審議していくということでもいいのか。
事務局	今後、委員会や市民会議の意見を参考にし、新事業や今ある事業の見直し等を行い、実施計画の策定等具体的な準備を進めていく。
松本委員	市民会議でいろいろな意見が出ると思うが、うまく市民会議と市、委員会がリンクするような進め方をしていただけるよう期待している。 動画で財団の事業が取り上げられていなかった。プロの団体がたくさんいるが、市が主催しているものだけが茨木市の文化活動というとらえ方ではいけない。他のプロなどの団体が行っている事業も取り入れて市の職員に周知しないと意味がない。
山野委員	文化振興ビジョンはうまくまとまっていると思う。 文化振興をピラミッドに例えると、問題なのは一番大事な頂点と、底であるテーマに理解しづらいところがある。 市民会館が今年で閉館ということがあり、差し詰め立命館に1,000人収容のホールができるが、その様子を見たりそこを借りるといった、そういう考え方で市として文化の振興に対する本気度はあるのか。いかに市として文化振興をしていくかということである。 立命館大学のホールは市の施設ではなく全く別物である。そこを借りる、その利用状況をうかがうというのは理解できない。 ビジョンに書かれても、具体的な施策に展開できないのであれば非常に悲しい。 また、文化活動をされている方は、基本的に健常者の方、興味がある方である。文

議 事 の 経 過

発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
後藤委員	化振興ビジョンの「みんなが楽しい」という部分だが、文化以前に生きていけない、文化に疎遠な方々が多数いる。そういった方に対する施策も考えてこそ、みんなが楽しい文化のまちになるのではないかと思います。 昨年の会議で審議した意見が取り入れられており、具体的に 10 年後に市民なり私たちの空気が変わってほしいと思う。そのためには、それをやったら成功する、だれも正解は持っていないが、間違っても数を打っていかないといけないのかなと思う。そして実行され、空気が変わってほしいと思う。 市民、生活している人をつなぐということを思いつきでもやっていかないと空気が変わらないのではないかと思います。
安藝委員	財団の立場として新ホールの問い合わせが多い。財団主催事業のお客様はほぼ常連で、新規が少ない。難しい。周知の問題もある。市民会館も常連ばかりでいったこともないという人が多く、もっと財団をアピールしてほしい。
森委員	いいものが出来上がったと思う。これからどうしていくのかという方針が見えてきたわけで、次にどうしていくかということですが、後藤委員もおっしゃったように、市民と施策をつなぐ役割が重要だと思う。 弱者を含めた普通の人たち、プロではない人たちが集まる仕掛けをしたり、結びつけるようなコーディネーターのような人を行政と距離を置いたところに設置する必要があるのではと思います。というのは、私どもの大学では社会連携といって、大学と地域自治体の連携を進めている。 私が3年ほどやっていたのは、ある山村なのですが、年配の方々が市の施設に集まって何かをするということがなかなか難しいということがある。しかし、地域に残ってきた郷土の伝統、たとえば料理なんかでは、あなたの家ではどのような御雑煮をつくりましたかということを学生がアンケートし、発表会をしますといったところみんな集まってきた。急遽2倍の定員の会場に変更しなければならなくなった。つまり、関心を持たせるための仕掛けをする人たちは、僕は案外若い学生なんかでいいと思う。そういう人たちとの、人を使って人と人とを結びつける仕組みづくり。 せっかく立命館大学が茨木に来たのだから、若い力を活用するということを積極的に行えばよいと思う。
木村委員	行政が考えると総花的になり、仕方がないが、どう絞っていくか。私が会長を務める茨木美術協会の会員展を茨木市立のギャラリーで先日開催したが、2,000 人の来場が

議 事 の 経 過

発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
飯嶋委員	あった。 ただ作品を並べるだけでなくワークショップ等目を引く施策を検討しなければいけないのではないかと。補助金の申請の時に自己資金でおおかたの 70 万円を投入して、10 万円の補助金をもらうことになったのですが、それも茨木の魅力を作品を通して再発見しようじゃないかということ。 それを公共施設に展示しようというような話がありましたけれども、それをどうコーディネートしてどうやっていくかということを一美術協会でやっていこうという、実際何かをやりださないと、という発想でやっている。そういうことが必要かと思う。 美術館の構想が過去にあったという話をしたが、美術館の役割は作品を収集したりそこで研究したり、市民が集まって簡単なものではあるが絵葉書などを作って、お年寄りの物忘れ防止には非常に役に立つ。そういうことや、かつては美術館といえば、ホールがあり、文学があり、歌もあり詩もありすべてを包括したものだったのだが、今はただ作品を展示するだけという意識が皆さんの中にあるのではないかなと。ホールは非常に魅力的だが。美術協会がそういうものを推薦していかないといけないのではと思っている。 今の動画を見て、各催しがあるということをいろいろ知ったという話だったが、私自身も全部を知りませんでした。 というわけで、私たちは催す側でイベント情報には網を張りめぐらせているが、もう少し市民の方にイベント性を音楽以外でもアピールできる施策が必要かなと思った。 いろんな場所で実施しているので、それを知らせるということは重要なのですが、「あそこに行けば見ることができるよ」ということがわかるような、ある程度しっかりとしたハコモノというか、美術館なりホールなりが必要かと思う。 先ほど松本委員がおっしゃったように、市民の方々にご提供する。 また、市民会館に足を運べない高齢者の方に向け、病院や施設に出向いて公演を行っている。これは公益補助金を基にして、その 3 倍以上の金額をかけて開催しており、リピーターも出ている状態である。補助金は 3 年間という話であるが、続けていただきたい。 立命館の民間ホールということに関して、建ってから様々な話を周りから聞くことがあります。まず、一番問題になっているのが、会場の予約が 6 か月前からであるということです。大きな催し物になると、6 か月前で取れないとなると準備が間に合わない。もしそこで取れないとまた別の会場でとなるとという現象が起きている。どうしても取れなかったのが、学長に掛け合ったら取れたという話もある。こういう事態で

議 事 の 経 過

発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
出口委員長	は問題が起きるのではないかと危惧している。1年前から予約ができるように移行していってほしい。 茨木市に開放しているとはいっても、外から見るとやはりあくまでも立命館のホールです。茨木市は使わせてもらってはいるがやはり、茨木市のステータスとして、市のホールは必要ではないかと思う。市会議員の人が訪ねてこられて必要ですねという話もあった。 先ほどの話の高齢者向けに音楽配達便という全国的にも珍しい形式で3名から4名で演奏を行っている。 次世代、若手向けという部分では、小さな子どもに対しても文化施策が必要である。音楽の授業が週1コマしかないという状況も問題である。この部分に関しては、あっちこっちコンサートと言って幼児向けのコンサートを行っている。これからの文化に少しでも力になればと思って行っている。補助金に関しても、自立できれば自分たちの力で何とかしてくださいという一文が入っていますが、もう少し補助金のことも踏まえて茨木市の文化のために、良い制度は続けてほしいと思っています。 ビジョンについてはシンボルカラーの赤を使い、出来のいいものをありがとうございます。 私たちが議論していたとき、第5次総合計画の「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまち」というものを条件として議論したのですが、議論しやすかった。 それはある意味でそつがなく、ある意味では面白くないというものだったかもしれない。今後、文化振興ビジョンを具体化していくうえで、3ページにある「文化振興ビジョンを対象とする分野」がこれだけ並んでおり、逆に言うとうどん文化芸術を発展させていくか、すべての項目にチャンスがあるということである。 全部をというのは無理であると、財政上仕方がないことだとは思いますが、市民の方々、関係の方々が、これを打ち出していこうという、下からの盛り上がりがある意味の競争というか、そういったものがどれだけ出てくるか。そういったことがビジョンを具体化するときに非常に鍵になるのではないかと思います。 もう一つ、先ほどの音楽配達便ということですが、実は今後のビジョンについて、全部ですけれど、公的な機関がやるものでも今後は民間の公益活動、即ち公益法人とかNPO法人といったところを活性化させてやっていくものだと思う。音楽配達便ということを聞いて、私はある公益財団法人名前が浮かんで、たぶんこういう財団なら興味を示すだろうなと思った。 ということで、事務局も覚悟をしてほしいのだが、去年はある意味で議論の幅が狭かった。今年は議論の幅が広がっているので、そういった意味では非常に厳しい意見

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	が委員の中から出て当然だし、出ないといけない。それを受け止めるだけの覚悟をしてほしい。 2 今年度の文化事業、取組
出口委員長	次の議事内容について、事務局の説明を求めます。
事務局	今年度の文化事業、取組について 今年度の文化振興事業についてまとめています。 (事業計画、実施状況の説明) HUB—I B A R A K I A R T C O M P E T I T I O N まちなかアートツアー 川端康成文学館 30 周年事業 市民会館の年度末での閉館及び市民会館閉館記念コンサートの開催などを予定しています。 茨木市提案公募型公益活動支援事業補助制度の話が出ていたが、提案公募型補助金に 60 万予算が計上されている。なお、既に今年度分も確定しています。
出口委員長	説明は終わりました。ただ今説明がありました平成 27 年度の取組について、各委員のご意見、ご感想などをお話いただけたらと思います。
森委員	“川端康成の恋”という非常に良い感性のテーマで企画展をされている。私も学芸員時代があった。ただ物を展示するだけでなく、良い感性のいい人材がいると、いろんな事業が展開できると思っている。こういう事業は、ほんとに人、人材じゃないかと私は思っています。 それと、教えてほしいことがあるのですが、郷土芸能もみすり唄について、去年は 10 万円の補助金だが、補助金の中で具体的にどのような事業をしているのか。
事務局	茨木の南のほうにある沢良宜という地域に残されているもみすり唄の保存、普及を公民館等の地域で行っている事業である。 補助金は具体的には衣装等に使用されていると聞いている。
森委員	10 万円から今年度 1 万 7 千円に減額されているので、具体的にどこにか変更があったのかと思って質問しました。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	26 年度の補助金で衣装等を用意されたので、その分が減っているのだと思う。 去年も今年も申請があった分、満額の補助金が出ている。申請額がそもそも 1 万 7 千円だった。申請の額を落とされている。
栗本委員	事業計画の内容に関して、文化振興ビジョンを策定することと被っていたのかもしれないが、去年 1 年間と今年度の計画を比較しまして、これが反映されて、がんばって新しい企画を入れたものがどれなのかなと思って、聞こうと思った。 いろいろな分野があるので、3～4 年計画として「今年はこのジャンル」と決めてしまって、そこからひとつひとつ新しい分野を活かした、今年はこれなんだというものを一つ下につけて、民間の力なりを活用して相談をしてやっていく。そうすると一步一步、空気が変わって、5 年後には一巡するということになるかもしれない。そういう心意気で次の委員会までに、何かこう、課題を解決してやってきたのだという、そのたたき台のようなものが出てくればいいと思う。
事務局	事業計画についてだが、ご指摘があるように昨年度と変わりはない。ただ、川端康成の内容等について工夫を凝らしている。先ほど説明した若手芸術家育成事業などは、毎年少しずつ内容を工夫しながら、同じものにならないようにと実行委員会にお願いしている。提案公募型補助金については、昨年度は総額で 30 万円だったところを、今年度は 60 万円に増額している。 文化振興ビジョンの中に情報発信というキーワードがあり、Facebook、Twitter 等の SNS を活用し、編集が必要ではあるが、先ほどの動画等を発信していくという試みを考えています。
出口委員長	今の質問に対して即答するとそのような回答になるのだとは思いますが、私を感じるには、とても奥深い質問だと思う。結局、“我々の役割とは何なのだ” という話にもなりますので、今年の委員は厳しいぞという形でしっかりと今の意見を受け止めていただければと思います。 次の議事内容について、事務局の説明を求めます。 3 文化芸術推進市民会議について
事務局	【事務局説明】 文化芸術推進市民会議について

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	市民会議では、直接、様々な意見やアイデアをいただいて、今後の文化施策の参考にします。これまでアンケート等でも意見がありましたように、市内の文化団体は独自に活動はしているが、横の連携がなかったので、各団体に連携をしてもらうという趣旨でもあります。 構成メンバーについて、市民委員は 5 月の広報誌で募集しています。約 20 団体の文化芸術関係団体にはこれから声をかけます。 大学との連携、市内の追手門学院大学、梅花女子大学、立命館大学に協力を依頼している。また、商工会議所、観光協会、文化振興財団、そして茨木市からの構成メンバーで合計 30 人程度により会議を開催したいと思っています。 開催スケジュールとして、今年度は 2 回程度開催を予定しています。第 1 回目は、7 月 31 日で考えています。第 1 回目では、まず、文化振興ビジョンと市の事業を知っていただくため、最初に説明し、テーマ設定をして自由に意見を出し合ってまとめていくというワークショップ形式で行う予定です。
出口委員長	説明は終わりました。文化芸術推進市民会議について、または今日の会議全体に対してご意見をお願いします。
飯嶋委員	去年の 12 月にクリエイトセンターで著名なピアニストがいらして、演奏の始まる前に、「空調の音が気になりませんか」とマイクロフォンで突然問いかけた。「寒いので私はとても気になる」と、「私は我慢するので、きょうは空調を止めないで演奏するのでみなさん我慢してください」という言い方かなと思った、それを聞いたときは、茨木市の施設の中で一番良いとされるクリエイトセンターの空調がこのような形で始まる前にお客様になったものですからとてもショックではあった。ホールができるまでの間にしても、市の現状のホールの改善にも力を入れて予算を立てていただいて、できるまでの間、問題を解決してほしいと強くお願いしたい。
松本委員	しつこいようですが、市の文化事業の中には財団が入っていますという認識を忘れないようにお願いします。
栗本委員	市民会議については誰かが先導してワークショップをするだとか、落としどころ、ゴール点を考えないと意味がないと思う。ざっくり集まってわいわいしたら、やった気になるけれども、結局なかなか実際には貢献できないということになりかねない。そこはかなり優秀なナビゲーターのような方にうまくまとめていただくということなど、工夫が必要ではないかと思いますが、そのあたりはどうでしょうか？

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	構成メンバーの中に 3 大学の先生や事務局に入ってもらっている。現在アドバイスをもらいながら検討している。
出口委員長	ビジョンのほうでは示していないのですけれども、ワークショップの具体的なイメージがまだわからないが、どういう形でしょうか。
事務局	現在は案の段階であるが、あくまでも例えばですが、川端康成の認知度という点にテーマを絞って、先ほどの映像ではないが、コマーシャルを作るなど、PR方法を考えてもらうようなこと、19, 20 ほど事業がありますけれどもその中からピックアップして中身について議論いただくなどである。テーマ設定をどうするかは現在考えているところである。栗本委員もおっしゃっていたようにテーマを絞らないと、意見を言いつばなしになってはいけないのでそのあたりはしっかり考えていく。
出口委員長	構成メンバーは決まっているのか。
事務局	こちらの案は決めている。大学には依頼済みであり、文化芸術関係団体にはこれからお知らせ、調整する。
出口委員長	23 ページに具体的に市民会議組織について各主体に期待される役割として並んでいるのですが、それと照合すると、「幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校では子どもたちが文化芸術に触れ、楽しむきっかけづくりを提供し、子どもたちの文化芸術の創造を支援することが期待されます。」とあり、教育機関は大学と高校以下という 2 つの柱があるわけだが、市民会議の構成員の柱に高校以下が含まれていない理由は何かあるのか？
事務局	各大学も高校等を持っている。幼稚園等については教育委員会と調整しながら考えていきたい。
出口委員長	関係部署の中に教育的な側面も入っていると。
事務局	そうである。
飯嶋委員	栗本委員がおっしゃっていた、一つずつ解決していくということは非常に進展があ

議 事 の 経 過

発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
出口委員長	と思う。東口の駐輪場が現在あるが、文化芸術ホールを建てるのであればあそこはどうするのかと、これはある議員があそこは収入があるのだと、なのであそこをなくしちゃうとまずいという意見がある。そういうところをどういう風にして問題を解決していくかという一つ一つのそれを解決策というのを作っていく必要があるのではないかと。 本日はたくさんの意見をありがとうございました。 今後、何か今のような、たとえば具体的な課題など、それから先ほど美術館の役割という少し大きな話も出ましたので、今後何かこの委員会として話していくような必要性のことがございましたら、遠慮なく事務局のほうまでご連絡をしていただきたい。 ある意味で文化芸術ホールのことがストップしているので、各委員としては去年、文化芸術ホール建設基本構想でやったことがどこにどう反映しているかということに多少引っ掛かりがあるように感じました。 できるだけいい形で文化施策を実際にやっていこうとすると非常に難しい点が多々ございますので、時間かけるときは時間をかけながらということになろうかと思いますが、推進というところでこの委員会がある程度の役割を担っていくと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。 それではこれで第1回文化振興施策推進委員会を終了いたします。ありがとうございました。
事務局	次回は11月10日火曜日13時30分からお願いします。 会場についてはご連絡を差し上げます。 本日の会議録については電子メールあるいは郵送でお送りして、ご確認いただいた後に市ホームページ上に公開します。